

サンババの稲刈り 口角筋休みなし

鎌倉区 小野塚いい子（本城町出身）

九月の運営委員会の折、今年の「ふるさと棚田オーナー」の稲刈り作業にＪネットからの参加者が少ないとの話を聞き、秋分の日からの連休の時でもあるので、稲刈りと私の生まれ故郷「松之山温泉」に寄り、ゆつくりしてこようと参加を決めました。

東京地区では、委員会後の五時三十分からサロンを開いており、毎回二十名程度の会員の方々が集まりますので、その場で稲刈り・温泉旅行に行きませんか？との声掛けに早川さんと日下部さんが「行きましよう」と手を挙げてく下さいました。

二十三日は上越、二十四日は松之山に宿を取る事で二泊三日のサンババの旅は決まりました。上越での宿は「湯つたり村」「みでらす」「いかや」の順にあたり「うみでらす」「いかや」の順にあたり「うみでらす」がナント故郷応援団とし

ては嬉しい結果の「いかや」になりました。満室状態だったのです。

私たちがサンババの旅は、約束の新幹線に上野駅から合流し賑やかにスタートしました。想像していたとおり、三人の口角筋は休むことを知らず、どんよりとした空模様の中姦しく、午後四時予定通り高田に到着し、本庁事務局の栗本さんと四月から高田の住人になられた松川副会長の熱烈歓迎を受けました。

松川副会長の案内で懐かしい街の中を抜け、早川さんのたつての希望だった春日山と五智の護国寺へと行きました。軍中サンババの口角筋休みなし春日神社の長い階段に挑戦する早川さんの健脚に脱帽しながら、後ろからついて行った私は、息切れと足の疲れに運動不足を感じて若くなくなった自分を見つめました。五智の三重の塔は夕暮れの中に静かに立ち、

境内にあるお店は閉まっていたましたが、夏の日に心太を食べたこと等思い出しながら散策しました。

夜の明かりが点る頃、和久井会長と合流し仲町へ。その結果、ホテルのチェックインは九時三十分でクローズ寸前のレストランに飛び込み、ホテルのご好意に甘え、宿泊者ドリンクサービス券を使って一日の疲れをとる休息タイムを過ごす事ができました。

会ったところからよくしゃべりよく笑って過ごしたサンババでしたが、布団に入ってから、暫くの間？おしゃべりタイムは続きました。

稲刈り当日の朝、目を覚ますと空模様はドンヨリして霧雨。「雨が上るといいね」と語りながらホテルに迎えに来て下さった栗本さんの車に乗り込み出発。湯つたり村の曽我さんの田んぼを屈指し、軽妙な栗本車は走り始めましたが棚田へ通じる脇道への目印を見失ってしまい、一本道を行ったり来たりを何度かしたところで、便利な携帯電話を持っていることに気付き、松川副会長にＳＯＳ発信、ようやく小学校前の坂道を登り始めたが、どの景色も皆同じ様で目的の田んぼは見えてこない。（軍中のサンババ……田んぼにも番地つけてあればねえ……）と口角筋休みなし。再度ＳＯＳ発信。白いガードレールのような所を左に入ってきた

いの言葉を信じてそのとおりにしたら名立町の方へ出てしまい、困惑する栗本さんをなくさめながら、再々度ＳＯＳ。もとの小学校前まで戻って待つていなさい」と、私達がその場所へ戻った時には、すでに曾根さんが待つていてくださり、やつとの思いで田んぼに到着することができました。

既に他の参加オーナーの皆さんは鎌を片手に稲刈りに精を出されている中、出発前は「私は監督よ」と言っていた早川さんもさっさと長靴に履き替え、鎌を手に田んぼへ。日下部さんと私も身支度を整え、風雨で倒れた稲の刈り方を教えていただいて田んぼへ。



鎌の刃が稲を切っていく「ジョリジョリ」の音が、手に耳に心地良く伝わってくるのを確認しながら、この時はかりは黙々と作業をしました。私にはこの「ジョリジョリ」感が、稲刈りで一番に嬉しい体感です。

おいしいおにぎりや山菜料理のお昼ごはん。はさがけと予定の時間内で全ての作業を終え、湯ったり村の温泉で汗を流し、ホクホク線に乗り込み一路松之山へ。サンババの口角筋休みなし……の愉快で楽しい時間は、翌日上野駅では又この挨拶までずうつくと続きました。

